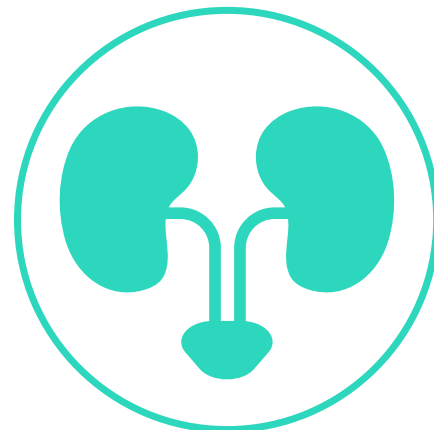




腎臓と泌尿器の疾患

犬のシュウ酸カルシウム尿路結石症



シュウ酸カルシウム尿路結石症は、犬の2大尿石の1つで、外科手術で除去しても再発しやすい疾患です。

シュウ酸カルシウム尿路結石症のリスク因子は完全には解明されていませんが、再発のリスクを下げるための多面的な戦略の一環として栄養を用いることがあります。シュウ酸カルシウム結晶尿の所見は、特に採尿後の尿検査が遅れた場合に偶然生じることがあるので、臨床症状やレントゲン写真の有無に照らして検討する必要があります。

キーメッセージ

- 尿路疾患用の療法食は、次のことから犬のシュウ酸カルシウム尿路結石の再発リスクを低減するのに役立つ可能性があります。
 - シュウ酸カルシウムの生成を抑制するマグネシウムなど、食事に含まれるミネラルやその他の栄養素を最適なバランスで摂取できるよう助けます。
- 食事に水を加えると、総水分摂取量と尿量を増加させ、より希釈尿を促す可能性があります。尿を希釈すると、尿石前駆体の濃度が低くなります。尿量が増えると排尿回数も増え、尿石ができる前に前駆物質を排出することができます。
 - 尿路結石症の管理には、希釈尿の排泄を促すことが推奨されます。
- 治療食と希釈尿の目的は、尿石形成の可能性の指標である RSS (相対的過飽和度) 技術で算出したシュウ酸カルシウムの準安定領域または不飽和領域の尿を生成することです。これにより、新たなシュウ酸カルシウム尿石が形成されるリスクを低減します。
- 研究結果は確定的なものではありませんが、理想的な体調を維持するための食事を与えることは、シュウ酸カルシウム尿路結石のリスクの低減に役立つ可能性があります。

(次のページに続く)

追加のリソース

Queau, Y. (2019). Nutritional management of urolithiasis. *Veterinary Clinics of North America: Small Animal Practice*, 49, 175–186. doi: 10.1016/j.cvsm.2018.10.004

Okafor, C. C., Lefebvre, S. L., Pearl, D. L., Yang, M., Wang, M., Blois, S. L., Lund, E. M., & Dewey, C. E. (2014). Risk factors associated with calcium oxalate urolithiasis in dogs evaluated at general care veterinary hospitals in the United States. *Preventive Veterinary Medicine*, 115(3–4), 217–228. doi: 10.1016/j.prevetmed.2014.04.006

Lekcharoensuk, C., Lulich, J. P., Osborne, C. A., Pusoonthornthum, R., Allen, T. A., Koehler, L. A., Urlich, L. K., Carpenter, K. A., & Swanson, L. L. (2000). Patient and environmental factors associated with calcium oxalate urolithiasis in dogs. *Journal of the American Veterinary Medical Association*, 217(4), 515–519. doi: 10.2460/javma.2000.217.515

Kennedy, S. M., Lulich, J. P., Ritt, M. G., & Furrow, E. (2016). Comparison of body condition score and urinalysis variables between dogs with and without calcium oxalate uroliths. *Journal of the American Veterinary Medical Association*, 249(11), 1274–1280. doi: 10.2460/javma/249.11.1274

Purina Institute は、ペットがより長く、より健康的に生きるための、科学に基づく顧客に寄り添った情報を提供することで、ペットの健康に関する議論の最前線に栄養を位置付けることを目指しています。